

同軸ケーブルRG188AU新旧仕様の比較

項目			旧仕様	新仕様	相違点
内部導体	材質		銀メッキカッパーウェルド撚り線	銀メッキ銅被覆鋼	材料の呼び名は違うが同材料で相違無し
	構成	本/mm	7/0.17	7/0.17	相違無し
	外径	mm	0.510	0.510	相違無し
誘電体	材質		4フッ化エチレン(PTFE)	PTFE	相違無し
	色		自然色	自然色	相違無し
	厚さ	mm	0.50	0.505	わずかに厚みが違うがほぼ相違無し
	外径	mm	1.50	1.52	わずかに厚みが違うがほぼ相違無し
外部導体	材質		銀メッキ軟銅線編組	銀メッキ軟銅線編組	相違無し
	外径	mm		2.03	
シース	材質		4フッ化エチレン(PTFE or PFA)	PTFE	材料特性は同等で相違無し
	色		白	白	見た目上少し違いが有り
	厚さ	mm	0.25	0.3	わずかに厚みが違うが使用上影響無し
仕上がり外径	mm		2.6	2.63	設計上わずかに外径が違うがほぼ相違無し
導体抵抗	Ω /km			288	
耐電圧	A.C.V/1min	2000		2000	相違無し
絶縁抵抗	M Ω ・km	最小 10,000		1000以上(製品実測値は2x100,000以上)	新仕様も10,000M Ω ・km以上で同等
特性インピーダンス	Ω	50 \pm 2		50 \pm 2	相違無し
静電容量	nF/km	標準 98		標準 95	近似値でほぼ同等
減衰量(100M/Hz)	dB/km	標準 375		標準 265	減衰量は低い方が望ましく新仕様が優勢

旧仕様、新仕様共にRG188AU同軸ケーブルとしての特性は上記の通り、同等で使用上代替使用は問題無し。
製品材料も同じ種類の材料を使用、被覆材料にフッ素樹脂を使用しており耐熱温度、耐油性、耐薬品性などは同等。
絶縁厚やシース厚、仕上がり外径も設計上の寸法はほぼ同じ。

ただ、シースの成型方法に違いがあり、旧仕様は溶融押し成形で、新仕様はラッピング成形となる。

- ・溶融押し成形： フッ素樹脂PTFE or PFAを溶かして押し出し導体に被覆する
 - ・ラッピング成形： テープ状のフッ素樹脂PTFEを導体上に巻き、その後焼成して樹脂を溶かして融着させる
- 上記のような成型方法の違いにより外観に違いが生じ、新仕様のシース上にテープのつなぎ目が出る。

両製品とも同軸ケーブルとしての特性・性能に違いは無いが、成形(製造)方法の違いにより外観の違いが生じる点が一番の相違点となる。